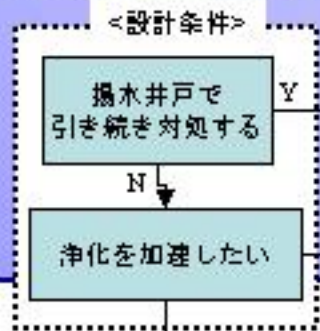


VOC対策 - 汚染の拡散を防止する静的浄化 (Passive)

有機塩素化合物によって汚染された地下水は、広範囲かつ深部への拡散・浸透を引き起こします。こうした地下水汚染について、同和産業では動的 (Active) な浄化プランの他に、静的浄化手法 (Passive Remediation) として透過反応壁 (PRB) を加国 Environmental Technologies Inc. 社から導入しました。これは積極的に汚染地下水を浄化するのではなく、地下水の自然流速を利用して汚染地下水を待ち受け、壁内で分解させる安価な浄化技術です。

メンテナンスフリーな技術で、PRB設置後は効果確認モニタリングを実施するだけです。

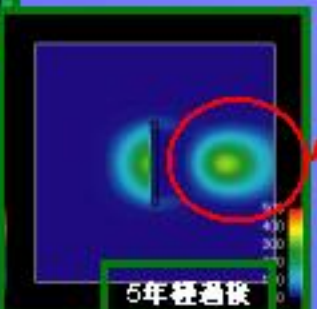
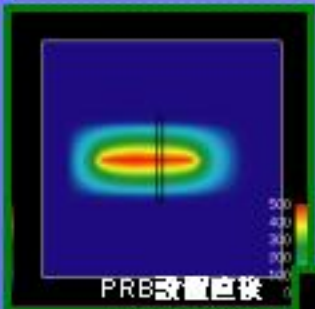
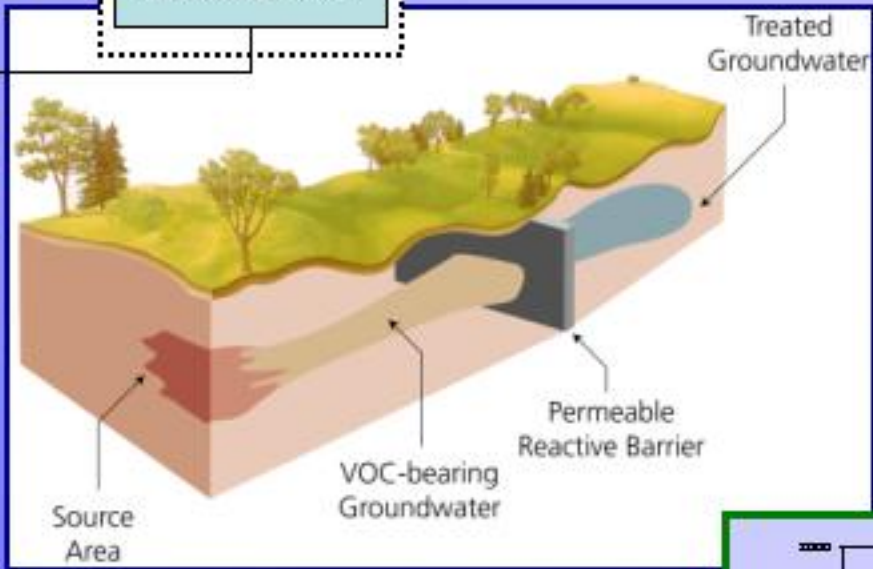
<Input>
地下水の汚染は残存し、
Phnumは特定済みである



Solution 1: 揚水処理の継続
「拡散部分は既存の設備で。」
敷地境界への拡散が防止できている場合、新たな投資を行わずに引き続き揚水処理を継続します。その際、揚水井の移設を実施することで、効率よく地下水回収できる場合があります。

Solution 3: 敷地境界でのPRB設置
「地下水浄化はできるだけ安価で」
揚水井が設置されていない場合、ランニングコストを削減したい場合、敷地境界にPRBを設置する方法が最もコスト的に有利です。

Solution 2: バリア井戸とPRBの併用
「拡散防止を促進したい」
揚水井が既設されている場合、汚染中心とバリア井戸の間にPRBを設置し、Phnumを分断して上流からの汚染供給を断ち、下流の拡散域のみをバリア井戸で回収する方法です。



PRB下流の残存汚染はRisk 管理が必要です。MNA、既存揚水井の活用などの検討が必要です。

